□　グループワークのまとめ

② 取り組むべき課題とその方策例

第７回検討会で出されたご意見を下記の通り整理しました。

1．震災・水害に強い市街地の形成

課題	● 浸水時でも機能する避難場所等の確保
方策例	水害時に機能する避難場所の確保
委員	１名
場所	全域
理由	• 荒川決壊時には北区の避難対象者が11万人となっているが受け入れ態勢が整っていないため。

課題	● 都市的な排水・調整機能の向上
方策例	豪雨対策・調整池の整備を早く進める等
委員	２名
場所	全域
理由	• 内水氾濫を止めるために迂回路をつくるなどの整備が必要。 • 東口は元々大きい池があった場所であり、地下水を含めて対策が必要。

3．まちの魅力を高める公共的空間の整備

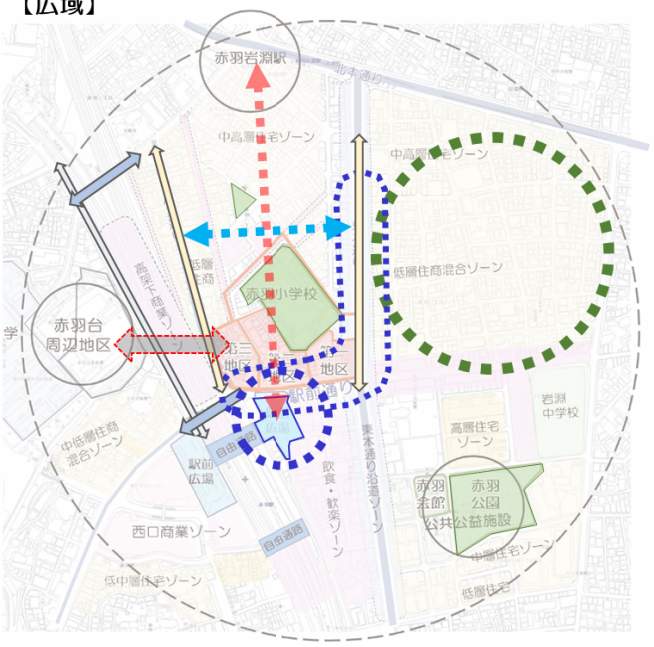
課題	● 新しくオープンスペースをつくる
方策例	住宅エリアに新たなオープンスペースをつくる
委員	１名
場所	低層住宅商業混合ゾーン・中高層住宅ゾーン
理由	• 東本通りから東側の住宅エリアにはオープンスペースが少ないので、緑の確保が必要。

課題	● 緑豊かなまちづくりの実現
方策例	土地利用のゾーニングの際には緑の不足も含めて検討する
委員	２名
場所	駅前広場／赤羽公園・赤羽小学校・三角公園
理由	• 自然・緑を入れることで新たな課題解決に繋がる。 • 赤羽公園や赤羽小学校、三角公園などにある大きな木など豊かな緑を大事にする

4．東京の北の玄関口にふさわしい都市機能の集積

課題	● 自然発生的なゾーニングを適材適所に再構成
方策例	工場跡地にたまたまつくられた赤羽公園の適地を含め、今後100年を見据えたゾーニングを検討する
委員	５名
場所	区域全体
主な理由	• 小学校・赤羽会館などの大きな区画のゾーニングを含め、現在のまちを広域的に捉えて、将来を見据えたまちづくりを考えるべき。 • 大きなゾーニングを駅前から始めるべき

【広域】



◆コミュニケーションの場の醸成（まちづくりの進め方）

課題	● ソフト面でのまちづくりの推進
方策例	コミュニケーションの場づくり （大家/テナント、来街者、新旧住民、外国人居住者etc）
委員	３名
場所	全体
理由	• 外国人居住者が増加している。震災時に連携ができるようにコミュニケーションの場がつくれればよい。

課題	● ソフト面でのまちづくりの推進
方策例	エリアプラットフォームの立ち上げ
委員	４名
場所	全域
主な理由	• 行政主導ではなく、住民主導の気兼ねなく話せる場がほしい。 • 住民が活発に議論できる場があればよい。 • エリアプラットフォームの立ち上げるなど、まちづくりを検討する場をつくった方が良い。

2．利便性の高い交通環境の整備

課題	● まちの景観向上と歩行環境の改善
方策例	歩道上の駐輪場を集約（移設）する
委員	１名
場所	駅前通りと東本通り
理由	• 利用者からすれば路上の駐輪場は利便性は高いと思うが、居住者からすると、見栄えは良くない。馬鹿祭りの際も歩道に駐輪場があって見学がしにくい。よりよい形で集約できたらよい。

課題	● 広域での取り組みの必要性（駐車場・駐輪場）
方策例	まちづくりのタイミングに合わせて、駐輪場等を移設・集約等により再整備を行う
委員	２名
場所	駅前広場
理由	• このタイミングで駐輪場の在り方を見直すべき

課題	● 東西を繋ぐ車両動線の整備
方策例	東西の車両の行き来がしやすくなる道路の整備
委員	８名
場所	ＪＲ高架下（南北の東西道路）／重点区域周辺
主な理由	• 南側の東西道路を相互通行にすべき。 • 東口と西口間の車両の行き来をよくすれば、交通事故の問題や歩行者の安全のどちらにも取り組んでいける。 • 街区割が斜めになっていて本町通りと東本通りの間の円滑な交通が確保できていない。

課題	● 東口と西口を繋ぐ歩行者動線の整備
方策例	人の行き来ができるように赤羽台ゲートウェイと東口を橋か地下で繋げる工事をする
委員	１名
場所	JR高架下

課題	● 交通手段間のアクセス性の向上
方策例	赤羽駅東口と赤羽岩淵駅をつなぐ南北の歩行者動線の整備
委員	（２名）
場所	赤羽駅と赤羽岩渕駅の間、東口周辺
主な理由	• JR駅と地下鉄駅・バス停がバラバラ。交通結節機能を十分に果たせていない。 • 赤羽駅と赤羽岩淵駅をつなぐ動線（地下街など）があれば利便性がより向上する。

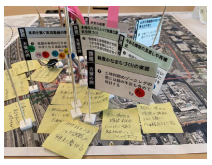
◆持続可能なまちづくりに向けた先進的な取り組み

課題	● サステナブルなまちづくり・低炭素に対応するまちづくりの実現
方策例	2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す
委員	（１名）
場所	周辺区域全体
主な理由	• 100年先のことを考えた場合、一番大切なことはサステナブルなまち。カーボンマイナスやSDGsに対し、まちとしてどういった答えを出すのか。

□　グループワークのまとめ

② 取り組むべき課題とその方策例

第７回検討会で出されたご意見を下記の通り整理しました。



1．震災・水害に強い市街地の形成

課題	● 建物の防災性能の向上 ● 周辺街区も含めた防災性能の向上
方策例	• 古い木造の建物(飲食店等)が密集している状態から火災や地震に強い建物への転換が必要 • 重点区域以外の老朽化が進む周辺街区の防災性能の向上
委員	１２名
場所	重点区域周辺エリア
主な理由	• 老朽木造建物を火災や地震に強い建物へ転換することが一番進めるべき課題。 • 重点区域だけでなく、周りも含めた周辺一帯が消防法の中で危険なエリア。重点区域に限らず防災性能の向上が求められる。

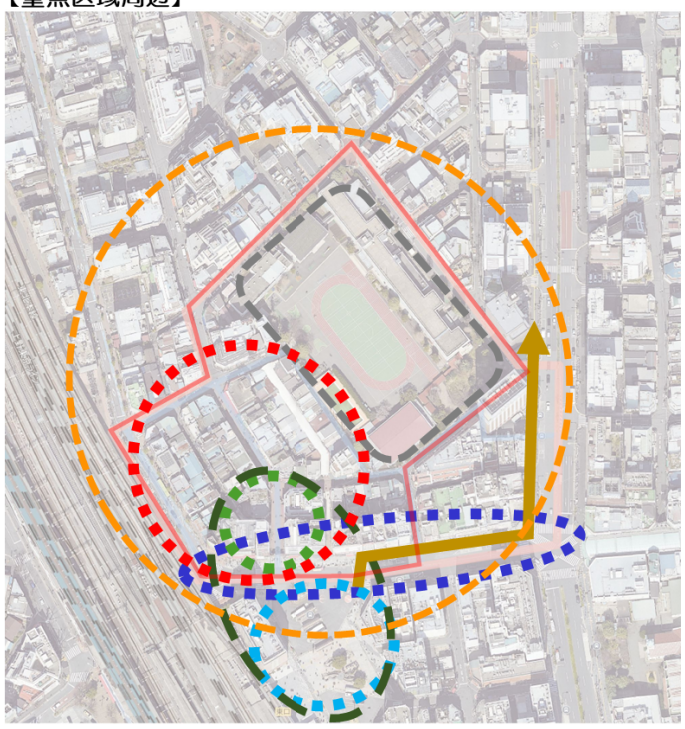
課題	● 緊急車両の通行の確保
方策例	地域や小学校への緊急車両の通行を可能とする十分な幅員を有する道路の整備
委員	１名
場所	重点区域周辺エリア
理由	• 緊急車両の通行を確保することによって必然的に建物を変えないといけない。道路の拡幅整備によって防災性能の向上も図れる。

課題	● 駅前の公共施設の整備・活用等
方策例	駅前に公共施設を整備し災害時に災害対応の拠点として活用する
委員	（４名）
場所	赤羽小学校／２地区・３地区
理由	• 駅前に災害対応拠点施設があれば、赤羽駅利用者にも対応できて、安心なまちに繋がる。

課題	● 被災時の駅利用者の避難先の整備
方策例	被災時の駅利用者を受け入れるスペースの確保
委員	１名
場所	赤羽駅周辺
	• 赤羽駅は乗り換えへのアクセスが良く、利用者の多い駅であるため、被災時に電車が止まれば駅の外に人が溢れることが想定される。そのような状況でも、ある程度の安全が保たれる場所が必要。

課題	● オープンスペースの確保
方策例	駅前にオープンスペースを確保する
委員	１名
場所	駅前広場
理由	• 大きい空地は避難や火災の焼け止まり等に非常に有効という観点もある。広小路のようなものがあれば、周辺の方の安全がより高まる。

【重点区域周辺】



2．利便性の高い交通環境の整備

課題	● 公共交通機関利用者の乗り換えを円滑化
方策例	分散している公共交通機関のアクセス性を向上 分散しているバス停を駅前に集約
委員	３名
場所	赤羽岩淵駅へ向かう動線上／駅前広場と駅前通り周辺
理由	• バス停の集約はアンケートの結果から見ても大切。岩淵駅へは一番街を避けて東本通りを通る人が多いので、そのルート上にバス停を集約する方が良い。 • 交通の結節点は大きな赤羽の魅力の一つ。分散しているバス停の集約などもあるが駅前広場のの整備の考え方は、もう一度検討した方が良い。

3．まちの魅力を高める公共的空間の整備

課題	● 今ある機能の見直しや再構成
方策例	喫煙所や稼働していない噴水の見直しや再構成により魅力ある駅前の顔をつくる
委員	４名
場所	一番街の入り口周辺を含めた駅前全体
主な理由	• 機能を分散させて、今あるもので赤羽の魅力を向上する方法を考えた方がよい。 • 駅前広場より広範囲で機能の再構成をすべき。

課題	● 多様な人々にとって快適な駅前空間づくり
方策例	喫煙者と非喫煙者が共存できる等多様な人々にとって快適な駅前空間づくり（分煙）
委員	１名
場所	駅前広場

課題	● ゆとりある駅前空間づくり
方策例	ゆとりがある駅前空間の創出
委員	２名
場所	駅前広場
理由	• ゆとりある滞在しやすい空間に、抜本的にきれいにしてほしい

課題	● 新しくオープンスペースをつくる
方策例	新たなオープンスペースをつくる
委員	３名
場所	一番街の入口付近／２・３地区・小学校
主な理由	• 一番街側は雑然としているため、公開空地のような形でもよいから新しいオープンスペースがあった方が歩きやすく、見通しも良くなる。 • ２・３地区・小学校を含むエリアに新しいオープンスペースをつくりたい

4．東京の北の玄関口にふさわしい都市機能の集積

課題	● 治安の改善
方策例	安心して歩いて楽しめる商業空間を整備する
委員	７名
場所	一番街の入り口周辺を含めた駅前全体／２・３地区
主な理由	• 赤羽駅降りてすぐに若い女の子と隣に怖いお兄さんがいる状況は、来街者からすると非常に印象が悪い。治安を改善して誰でも楽しめる赤羽になってほしい。 • 駅前広場のキャッチなど治安が悪い。もう少し環境づくりをしていく必要がある • 客引き防止のパトロールをしているが改善しない。

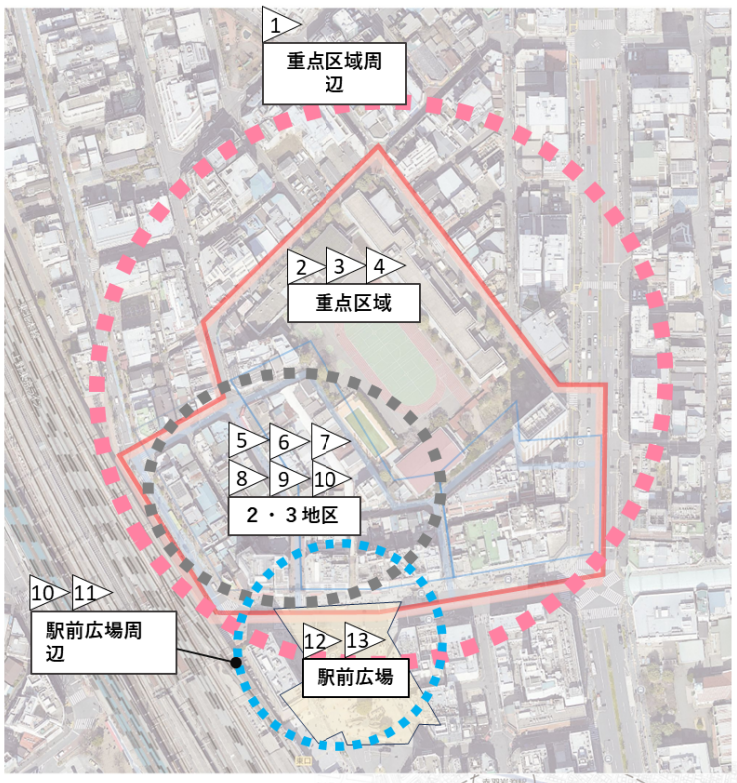
課題	● 利便性の高い住環境づくり
方策例	生活を支えるような買い物ができる場所を整備する
委員	１名
場所	重点区域周辺エリア
理由	• 買い物ができるような場所を整備してほしい。

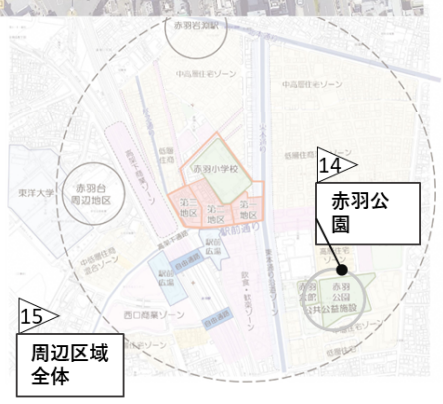
□ グループワークのまとめ

③ 欲しい機能・イメージ

第７回検討会で出されたご意見を下記の通り整理しました。

【重点区域周辺】





1

機能	1．全体に大きく目的を持った施設
委員	1名
場所	重点区域周辺
理由	• あまり小さなパーツとしたくない。子供のものなのか、パーツパーツになりたくない。まち全体の話。

2 3 4

機能	2．緑があるオープンスペース
委員	1名
場所	重点区域
理由	• 2地区、3地区のところで、緑あるオープンスペースがあったらよい。

機能	3．震災・水害に強い市街地の形成
委員	1名
場所	重点区域

機能	4．情報発信機能
委員	1名
場所	重点区域
理由	いろいろな意味で情報発信機能のある施設

5 6 7 8 9

機能	5．再開発
委員	1名
場所	2・3地区
理由	再開発による更新でまちの機能の向上が必要

機能	6．客引きがいない、チェーン店ばかりではない、大人も子供も入りやすい色々なジャンルの飲食店
委員	1名
場所	2・3地区

機能	7．集客施設(シネコン・アリーナ)
委員	1名
場所	2・3地区

機能	8．スポーツやイベントもできるアリーナ的な施設
委員	1名
場所	2・3地区

機能	9．複合施設
委員	1名
場所	2・3地区

10

機能	10．駅周辺の安全を高めて、地域全体の安心に繋げる
委員	1名
場所	2・3地区(再開発)＋駅前広場周辺

11

機能	11．多様な世代がお互いに存在を認識しつつ、過干渉もしない短時間から長時間、自由な用途で使えるフリースペース
委員	1名
場所	駅前広場周辺
理由	集会所などのスペースが駅前にあればよい。

12 13

機能	12．多様な世代が優しい気持ちになれるようなオープンスペース
委員	1名
場所	駅前広場
理由	

機能	13．緑豊かに人が滞留できる駅前
委員	1名
場所	駅前広場
理由	駅前のバス空間を含めての整備

14

機能	14．赤羽公園からまちづくりを考え発展させていきたい
委員	1名
場所	赤羽公園
理由	• 住民目線だと、公園の魅力がそのまちの魅力を最大限発揮できると考える。

15

機能	15．清潔で安心・安全な環境
委員	1名
場所	周辺区域全体

□ グループワークのまとめ

④ まちの将来像

第７回検討会で出されたご意見を下記の通り整理しました。

安心して子育て

将来像	子供がのびのび遊べるまち	1名
理由	• 子供がのびのび遊べるまちを考えれば全部に繋がる。こういうのができればいいまち。	

将来像	子供連れで安心して楽しめるまち	1名
理由	• 子どもが遊べて、親も安心して見てもらえるような場所があるべき。	

地域交流

将来像	スポーツを通して、にぎわいと交流、一体感が生まれるまち	3名
理由	• 西が丘のオリンピック施設のように他区に無い施設があればよい。タイアップできたらよい。 • トレセン通りや赤羽体育館などのスポーツ施設が連携して賑わいをつくれたらよい • 共働きが多くなる中で高齢化が進み、まちとまちとのつながりが薄くなってしまう。スポーツを通じて地域の人たちの交流を深めるのはすごく大きな意味がある。	

将来像	多様な世代と交流できるまち	3名
理由	• 多世代で交流することは大切。老若男女が知り合いでなくても一緒に過ごせる場所があったらよい。 • まちが持続的に発展してくためには、コミュニティー形成は欠かせない。	

将来像	地元住民同士の交流が盛んなまち	1名
理由	• 自治会や商店街の組合の会議があるが、そこが一緒になった会議はない。住民同士の交流も持つことが大切。	

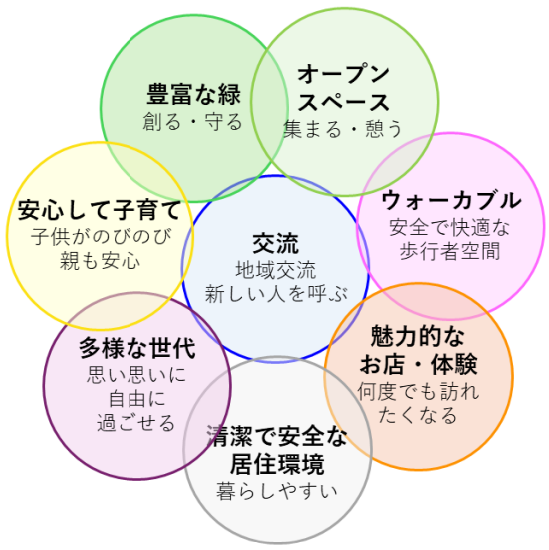
新しい人・来街者との交流

将来像	人を呼べる、交流が生まれる（アリーナがある）まち	2名
理由	• アリーナに限らず、新しい人を常に呼べるような、人の交流が生まれるまちにしたい。常に新陳代謝が生まれるまちづくりをしていかないといけない。 • 必ずしもアリーナでなくても良いが人を呼べるものが必要。本を読めるスペースや人が集まれるオープンスペース、娯楽施設などがあったら良い。	

将来像	来街者との交流が活発なまち	1名
理由	• 関係人口を含め、利便性があるところから、まちにお金を落とすのは住民だけじゃなく、来街者を含めてのコミュニティー。	

ウォーカブル

将来像	安全で快適な歩行者空間を備えたウォーカブルなまち	3名
理由	• 歩行者・車分離で事故も減らせる。立川は駅の北側で歩車分離をしていて、まちも賑わうし歩行者・車も分離出来て事故も減らせていいのでは。 • (来街者の立場)赤羽は慣れないと歩きにくいから歩きやすくしないと人来がないのではないか。 • 駅前から商店街という話もあるが、岩淵も宿場町として、荒川までを含めて、かわまちづくりがこれから始まる中で、赤羽地区全体でウォーカブルが必要になる。	



オープンスペース・緑

将来像	誰もが気軽に集まれるオープンスペースがあるまち	1名
理由	• オープンスペースがあることで住民同士のコミュニケーションが生まれる	

将来像	緑があふれるオープンスペースが豊富にあるまち	2名
理由	• コミュニティーの形成にも、オープンスペースは欠かせない。 • 赤羽公園のような大きなスペースは、他に代えがたい。小さなものもつくりながらも、赤羽公園をより使いやすいものにしてほしい。	

魅力的な商業施設

将来像	何度でも訪れたくなる個性的で魅力的な商業施設があるまち	4名
理由	• 何度でもとは、誰にでも優しくて誰もがリピーターになれるということだと思った。そういう商業施設が継続的にあればよい。住む人とかその都度のライフステージによって変わってくる。 • まちの将来を考えた時に何度でも訪れたくなるようなまちじゃないと将来性がない。赤羽は駅の交通の便がいいから、そういう面でも別の将来性から攻められるのではと思っている。 • 大きいイベントができる施設(バスケ・バレー・音楽のイベント）に付随して魅力的な商業施設があることによって人が集まる。常に同じものじゃなくて新しいイベントを打ち出していろんな人が来れるまちになるのかなと思う。 • 地域住民も含めて何度でも訪れたくなる商業施設があるまち。シネコン・アリーナ等があれば子供連れでも、映画を見て食事ができて一日過ごせるようなまちになるのでは。	

将来像	だれでも安心して利用できる飲食店があるまち	1名
理由	• （来街者の立場）物を買わないから、食べ物を選んだ	

将来像	定期的なマルシェが開催される広場や空間があるまち	1名
理由	• 魅力がある店が集まるマルシェが開催されているようなまちになると良い	

清潔で安全な居住環境

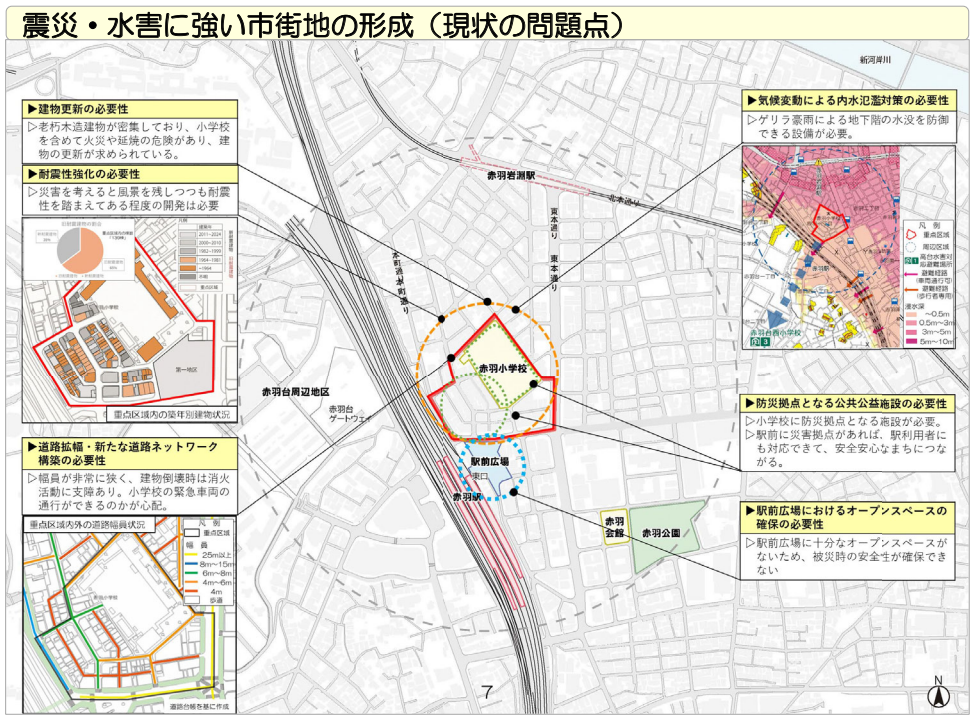
将来像	清潔で安全な居住環境が整って暮らしやすいまち	4名
理由	• 治安だったり、防災上など様々なものが含まれている • これをやれば全てに繋がると思う。 • 商業のまち赤羽だが、住民にとって、住みやすいまちであってほしい。 • 駅周辺には商業施設があるが、赤羽地区全体を見れば広範な住宅街。住民や人を呼び込むことにとっても安全は重要。	

多世代が思い思いに

将来像	多様な世代が思い思いに自由に時間を過ごせるまち	1名
理由	• 多様な世代がお互いに好きなことだけやっていたら、いがみあってしまうが、思いやりをもったようなまちになっていたら過ごしやすくて楽しいまちになるのではないか。	

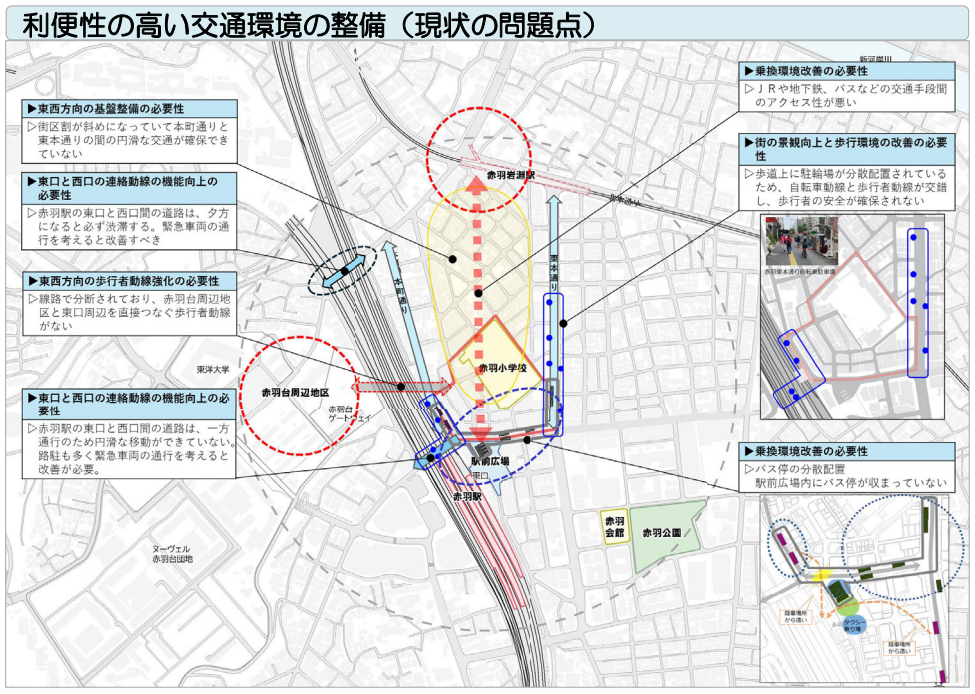
□　グループワークのまとめ

震災・水害に強い市街地の形成（現状の問題点）

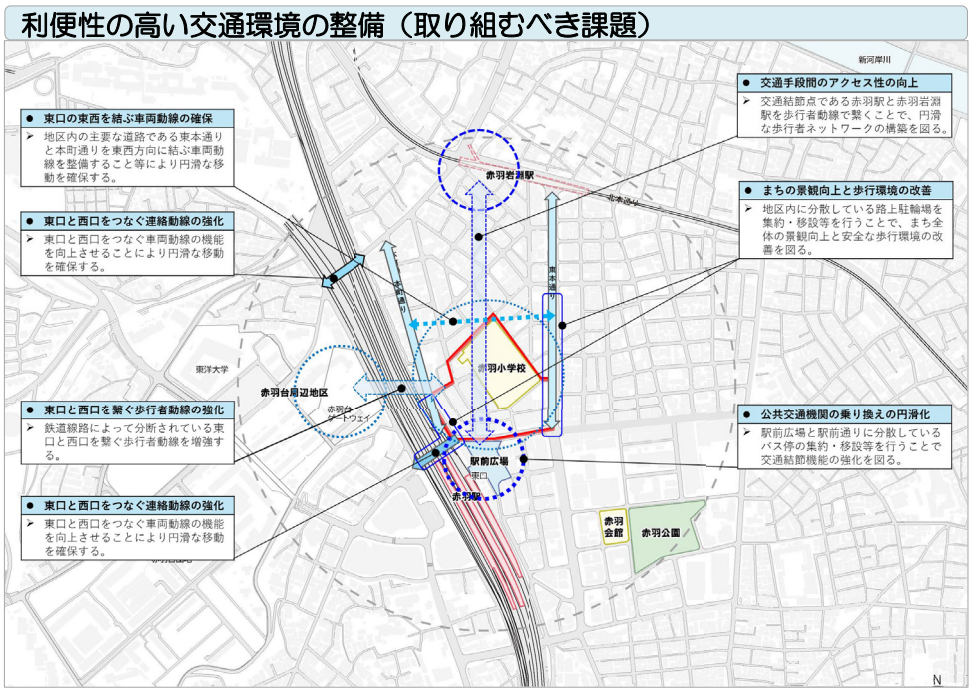


震災・水害に強い市街地の形成（取り組むべき課題）

利便性の高い交通環境の整備（現状の問題点）



利便性の高い交通環境の整備（取り組むべき課題）



まちの魅力を高める公共的空間の整備（現状の問題点）

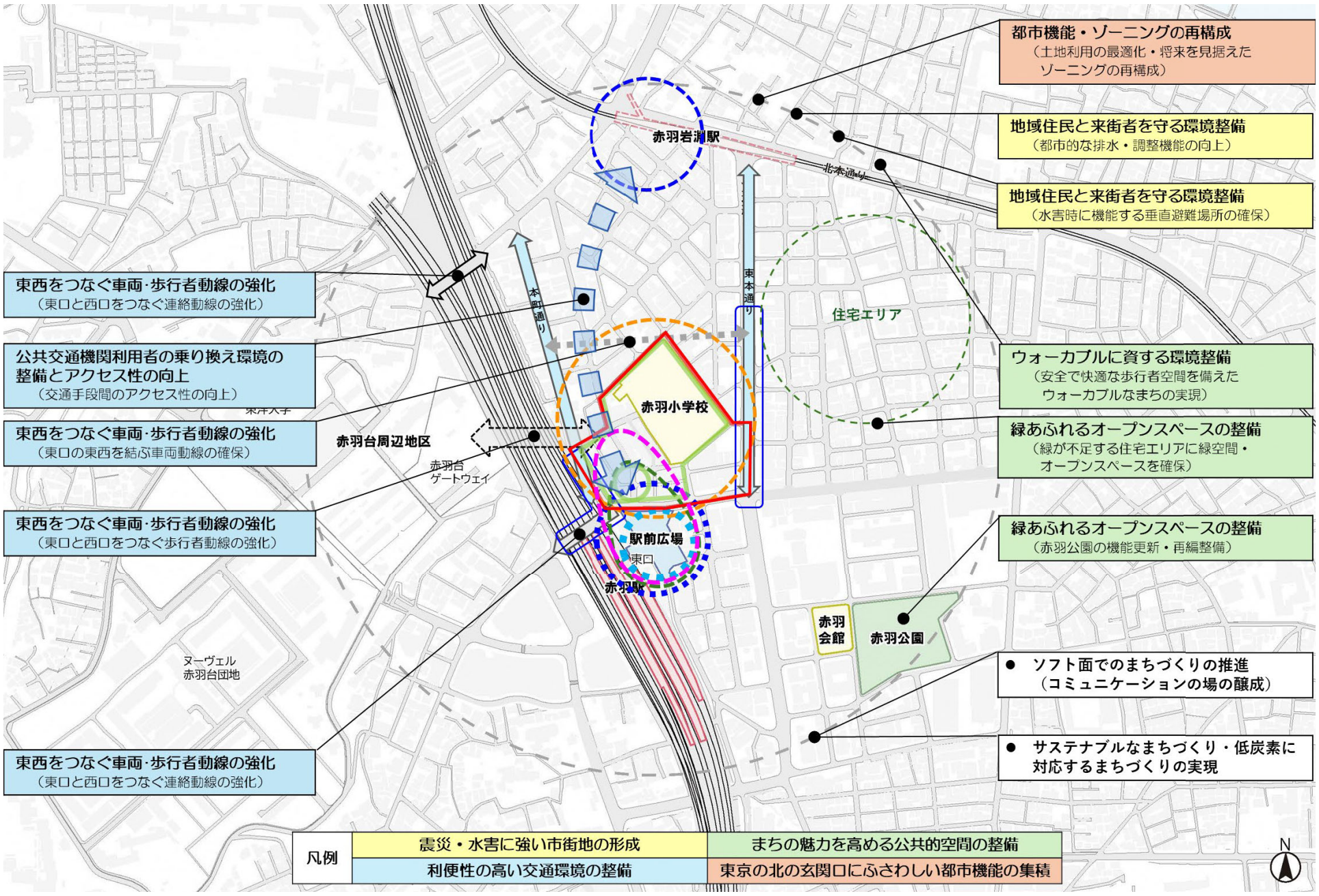
まちの魅力を高める公共的空間の整備（取り組むべき課題）

東京の北の玄関口にふさわしい都市機能の集積（現状の問題点）

東京の北の玄関口にふさわしい都市機能の集積（取り組むべき課題）

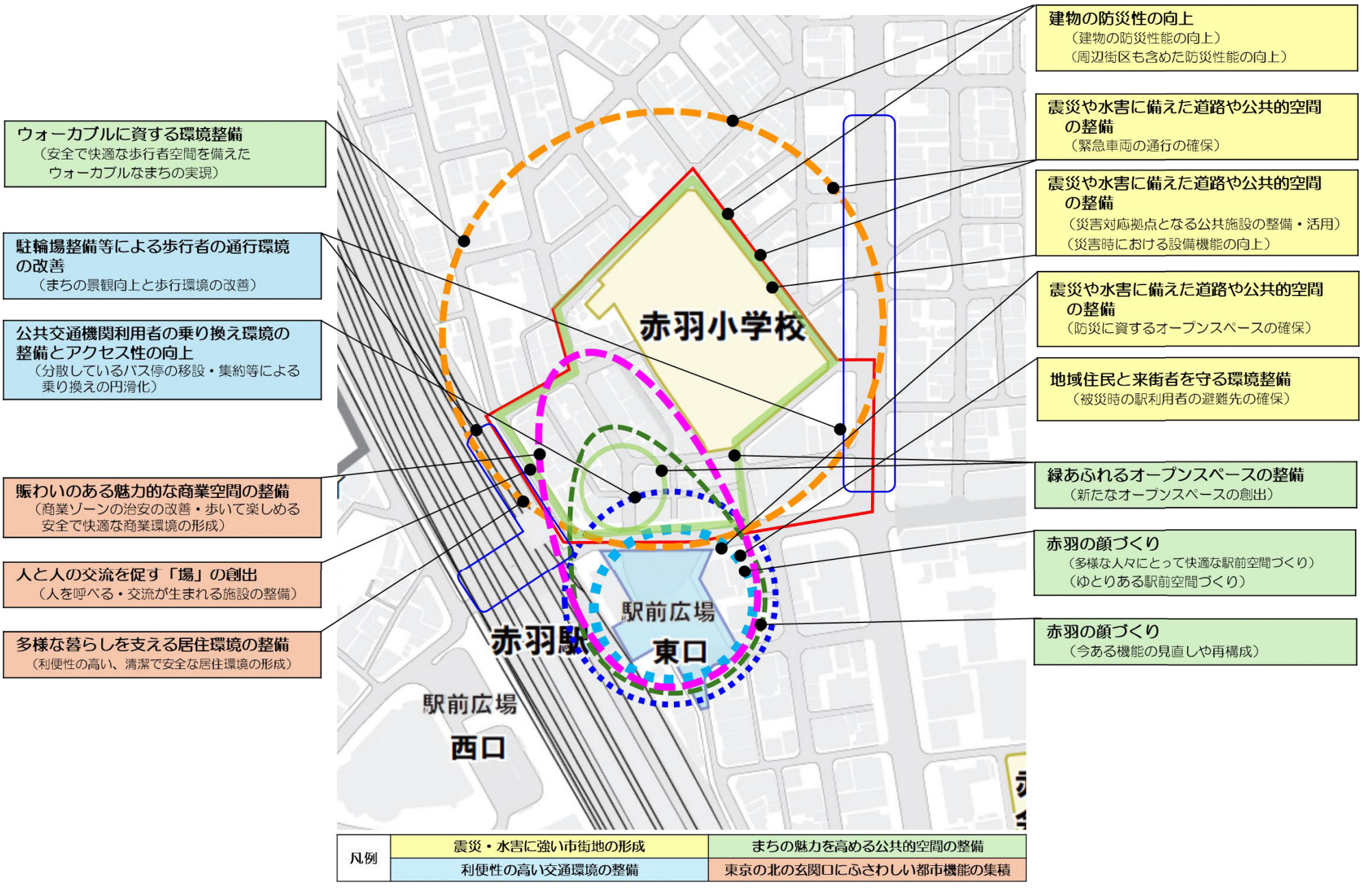
ロ　グループワークのまとめ

「取り組むべき課題とその方策例」について、グループワークでのご意見を広域マップ上に再整理しました。



ロ　グループワークのまとめ

「取り組むべき課題とその方策例」について、グループワークでのご意見を重点区域周辺マップ上に再整理しました。



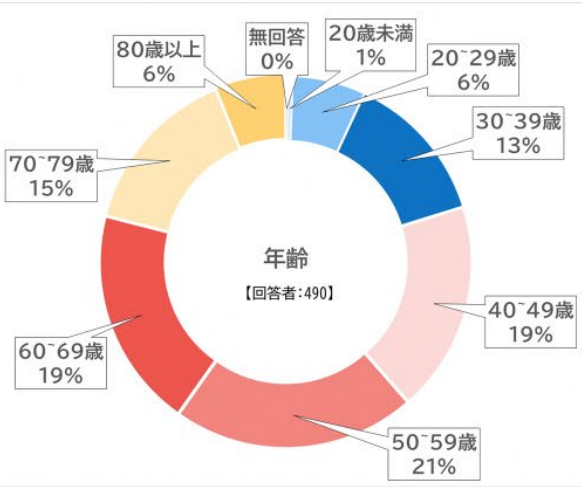
□　区民アンケート実施結果

検討会のグループワークと同じ内容で、赤羽駅周辺地区にお住まいの方にアンケート調査を実施しました。
※詳しい内容については机にアンケート調査結果の資料がありますのでご覧ください。
　右図のQRコードからもご覧いただけます。

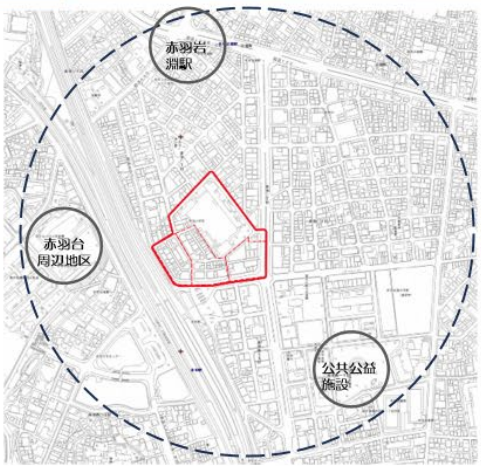
- より多くの方のご意見を頂けるよう、郵送とwebの併用でアンケートを実施しました。
- 合計490名の方々から回答を頂きました。詳細は資料編に掲載しています。

	赤羽駅東口周辺地区の居住者（抽出）		
対象者	赤羽１～3丁目、赤羽南１丁目、赤羽西１丁目内に 1年以上居住している18歳以上の区民 範囲内18歳以上人口：14,431人 ⇒ 信頼度95%の必要回答数：374人		
周知方法	対象者の中から無作為に抽出した 1,452名に対して調査票を送付		
調査期間	8/26 ～ 9/6		
回答方法	郵送回答	Web回答	計
計	318	172	490

回答者年代



（人, n = 490）



■アンケート内容
1.年齢、お住まいの地区、職業などについて
2.現在の赤羽駅周辺のまちについて
　①現在の赤羽駅周辺の魅力
　②赤羽駅周辺の課題だと感じていること
3.これからの赤羽駅周辺のまちについて
　①大切にしたい価値観や将来像
　②まちの課題解決に必要な取り組み
4.赤羽駅周辺のまちづくり全般についてのご意見(自由記述)

赤羽のまちづくりをする上で大切にしたい価値観や魅力に関するグループワークの結果から、まちづくりの目標を提案しました。

1．人と人がつながるにぎわいにあふれたまち

住む人・働く人・訪れる人などの様々なまちの利用者が訪れたくなる魅力的な場を創出し、人と人との繋がりや、にぎわいが生まれ、何度でも訪れたくなるまちを目指します。また、多方面からのアクセスが便利なまちの立地に加え、訪れるたびに新しい発見や体験ができる魅力的な場があることで、常に新しい人が訪れて活発な新陳代謝が生まれる赤羽を目指します。

2．様々な世代が元気に暮らせるまち

子供がのびのびと遊べる安心な子育て環境や老若男女がともに助け合える環境づくりに取り組み、子供から高齢者までの全世代が思い思いに自由に過ごせて住みやすさを実感できるまちを目指します。また、赤羽の緑の環境づくりに取り組み、住みやすい居住環境が整うまちづくりを推進していきます。

3．安心・安全で快適に過ごせるウォーカブルなまち

治安・防災性の向上、清潔で安全な住環境づくりに取り組み、居住者から来街者まで誰もが安心・安全で快適に過ごせるまちを目指します。同時に赤羽地区全体で快適な歩行者空間を創出をすることで、赤羽の魅力ある場を繋ぎ、外に出て歩きたくなるウォーカブルなまちづくりを推進していきます。

グループワークでいただいたキーワードから、赤羽のまちの将来像を示すキャッチフレーズについて３つの案を提案し、意見交換を行いました。キャッチフレーズは引き続き検討していきます。

今、“赤羽”というまちがもっているにぎわい、交流、歴史、文化という魅力を、未来に向けてさらに発展させていくという思いを込めて、将来像を示す３つのキャッチフレーズ案を作成しました。

案Ａ　人にやさしく　誰もが集える　にぎわいのあるまち　赤羽
～魅力あふれる東京の北の玄関口～

案Ｂ　北区赤羽　ふれあいとにぎわいがあふれた　サステナブルなまち

案Ｃ　はばたけ、次の世代へ！
～人がつながる、やさしさとにぎわいあふれるまち、赤羽～

御来場の皆様も、
キャッチフレーズについて
ご意見をお願いします

□　まちづくりの基本方針

　グループワークでいただいた「取り組むべき課題」などから、まちの課題を解決し、まちの将来像を実現するために、４つのテーマに合わせてまちづくりの基本方針を提案しました。

○震災・水害に強い市街地の形成

①建物の防災性の向上

・老朽化した木造建築物が密集する状況から、火災や地震に強い建物へ更新を図る
・地区全体での防災性能の向上を図る

②震災や水害に備えた道路や公共的空間の整備

・緊急車両の通行を可能とする十分な幅員を有する道路の整備を図る
・被災時の一時避難や、火災の焼け止まりに有効なオープンスペースを確保する
・駅前に災害対応拠点を確保し、災害時の設備や資材の充実を図る

③地域住民と来街者を守る環境整備

・被災時の駅利用者を受け入れる一時滞在施設や滞留空間を確保する
・水害時に機能する垂直避難場所を確保する
・気候変動などによる内水氾濫対策として、都市的な排水、調整機能の向上を図る

○まちの魅力を高める公共的空間の整備

①赤羽の顔づくり

・魅力的でゆとりある赤羽駅前や赤羽らしいにぎわいのある顔づくりを進める

②緑あふれるオープンスペースの整備

・オープンスペースが不足する地域に、新たに緑あふれるオープンスペースの整備を進める
・今ある緑空間を生かし、魅力ある公園空間とするための再整備を進める

③ウォーカブルに資する環境整備

・歩いて楽しく、居心地の良さを感じられるウォーカブルなまちづくりを進める

○利便性の高い交通環境の整備

①公共交通機関利用者の乗換え環境の整備とアクセス性の向上

・分散しているバス停の集約も含め利用しやすい乗換え環境の整備を図る
・赤羽駅と赤羽岩淵駅のアクセス性の向上を図る

②東西をつなぐ車両・歩行者動線の強化

・車両が行き来しやすく、歩行者の回遊性が高まる駅東西をつなぐ動線の強化を図る

③駐輪場整備等による歩行者の通行環境の改善

・駐輪場等の整備に合わせて歩行者空間の整備を進め歩行者の通行環境の改善を図る

○東京の北の玄関口にふさわしい都市機能の集積

①都市機能・ゾーニングの再構成

・自然発生的ではなく将来を見据えたゾーニングを検討する

②多様な暮らしを支える居住環境の整備

・多様な世代にとって利便性の高い居住環境の整備を図る

③賑わいのある魅力的な商業空間の整備

・安心して歩いて楽しめる魅力的な商業空間の整備を図る

④人と人の交流を促す「場」の創出

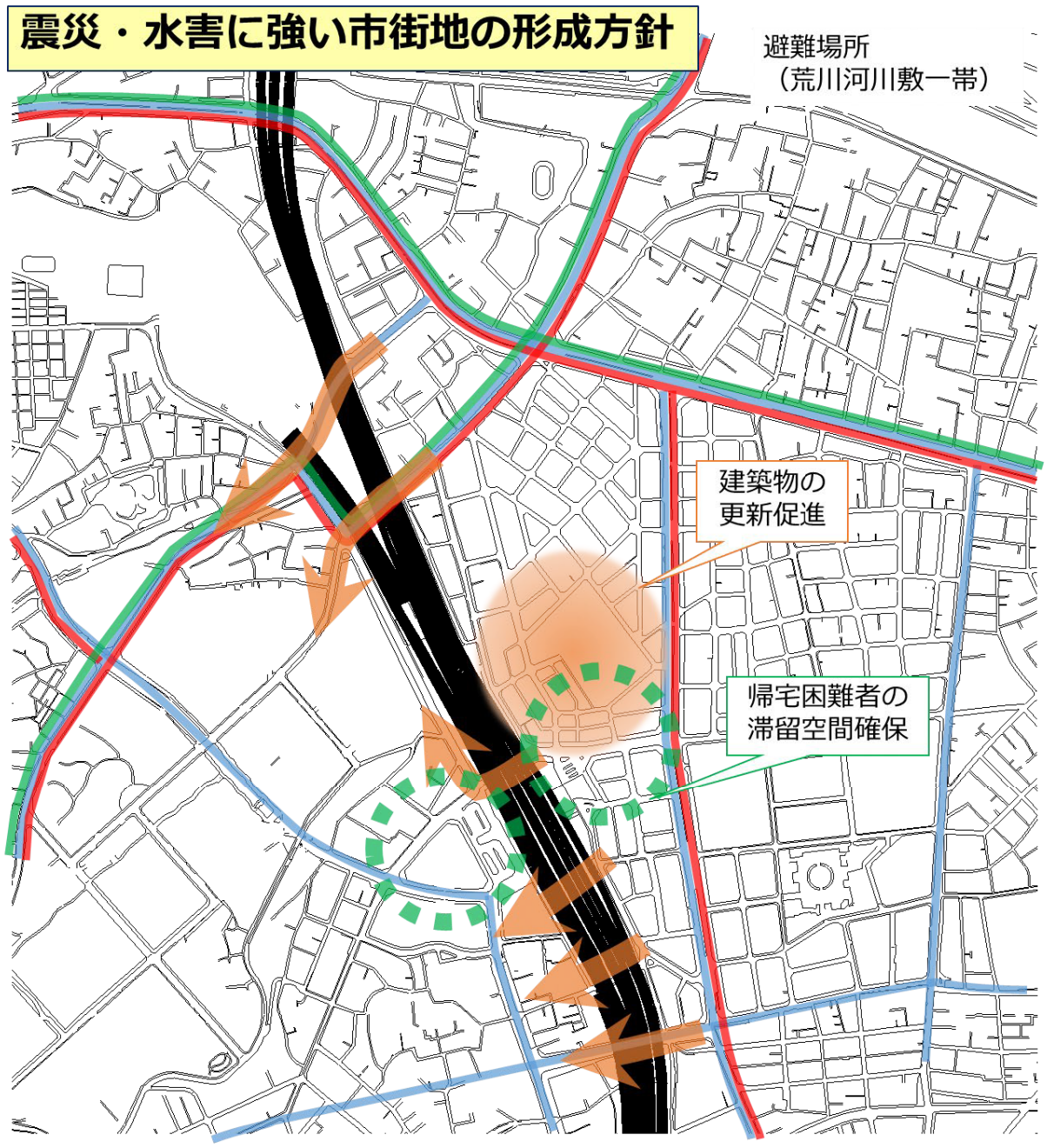
・地域住民や赤羽を訪れる人達との交流がうまれる施設などの整備や仕組みの構築を図る

□　まちづくりの方向性

　「まちづくりの基本方針」に沿って、当地区で具体的に対応していく内容を整理しました。整理にあたりましては、一部、行政側で実現性を加味した内容としています。

参考となる図面	今後、対応していく内容や方針

震災・水害に強い市街地の形成方針



①建築物の防災性の向上

緊急輸送道路沿道の建築物の耐震化や、避難場所である荒川河川敷一帯への避難路沿道の建築物の不燃化を図ります。
また、駅東口周辺では防火性・耐震性に問題のある建築物の更新を図ります。

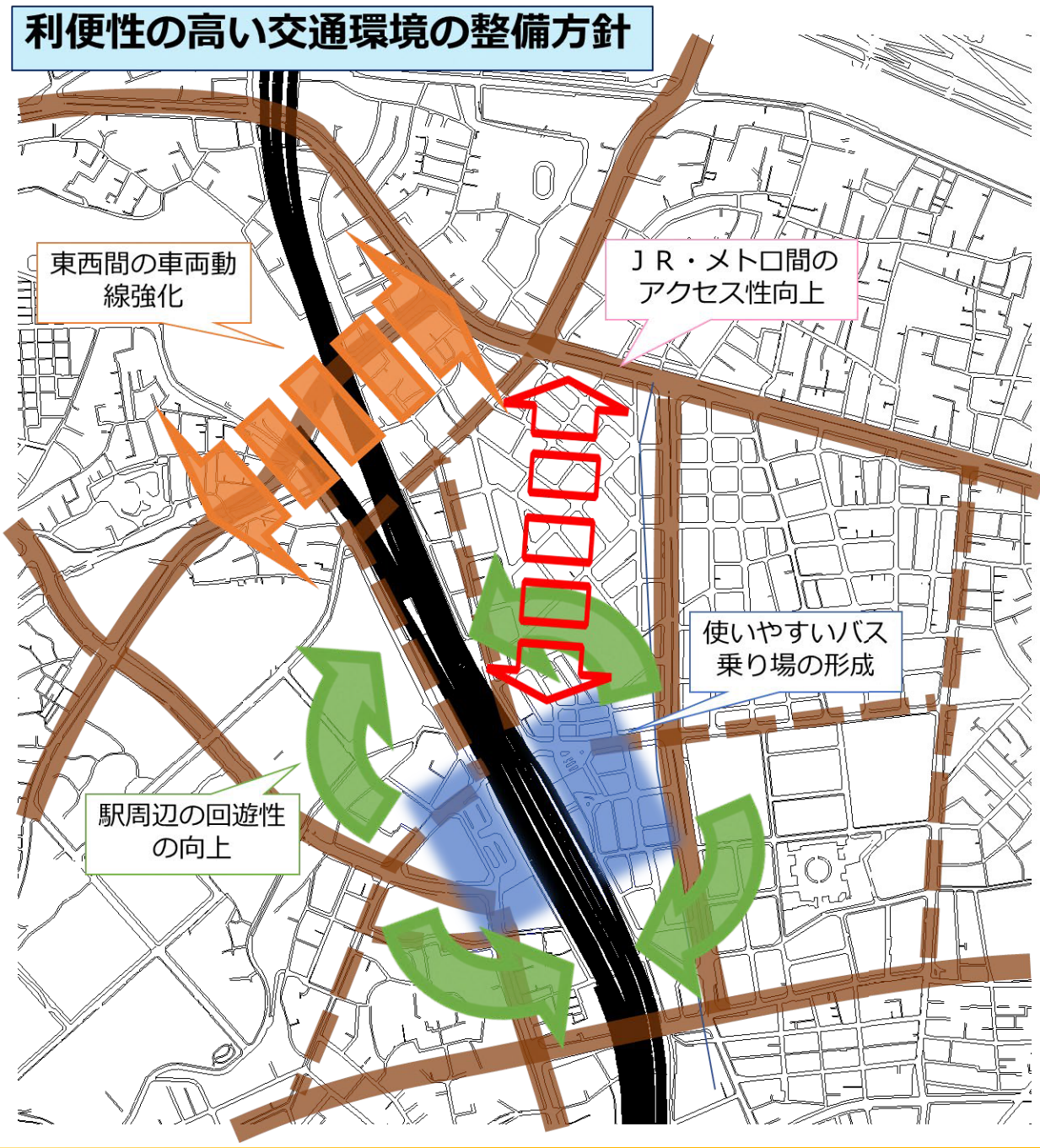
②震災や水害に備えた道路や公共的空間の整備

まちの骨格的となる緊急輸送道路や避難路、高台避難ルートの整備をすすめ、震災・水害に強い市街地を形成します。
また、建物更新やまちづくりにあわせて、生活道路の拡幅や再編、オープンスペースの確保などを行い、まちの防災性を向上させます。

③地域住民と来街者を守る環境整備

震災時に、帰宅支援対象道路では徒歩帰宅者が円滑に区内を通過し帰宅できるような対策をすすめるとともに、駅周辺では帰宅困難者の一時滞在施設や滞留空間を確保します。
また、荒川氾濫時に浸水する区域については、緊急時の垂直避難先の確保を進めます。内水氾濫対策として、都市的な排水機能等の向上を図ります。

利便性の高い交通環境の整備方針



①公共交通機関利用者の乗換え環境の整備とアクセス性の向上

使いやすいバス乗り場の形成やＪＲ赤羽駅と東京メトロ赤羽岩淵駅間のアクセス改善等を行うことで交通結節性を高め、交通利便性の高いまちを形成します。

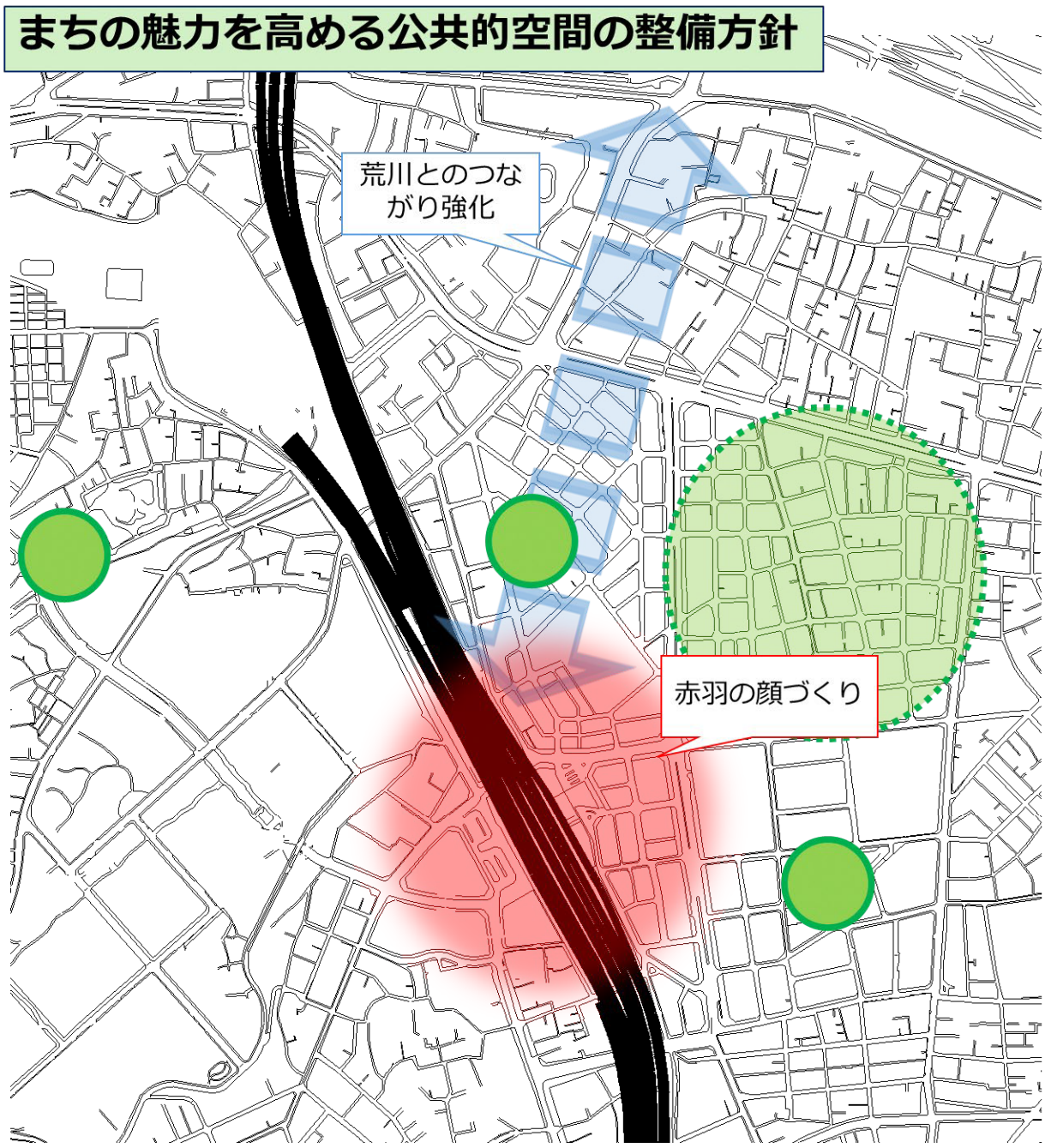
②東西をつなぐ車両・歩行者動線の強化

幹線道路の整備等により線路の東西間の車両交通の円滑化を図るとともに、駅東西間の歩行者動線を強化することで駅周辺の回遊性向上を図ります。

③駐輪場整備等による歩行者の通行環境の改善

駐輪場や自転車走行空間の整備と合わせて、歩行者空間の整備をすすめ歩行者の通行環境の改善を図ります。

まちの魅力を高める公共的空間の整備方針



①赤羽の顔づくり

駅前を開放的な空間とするための取組みを進めるとともに、その周辺の建物低層部を含めた駅前空間を赤羽らしいにぎわいが感じられる空間とすることで赤羽の顔づくりをしていきます。

②緑あふれるオープンスペースの整備

公園の不足する地区などで公園整備を進めるとともに、公園・広場空間の適正配置を図ります。

魅力ある公園空間とするための再整備をすすめます。

道路空間の緑化や開発による緑空間の整備などにより、まちなかの緑化を進めます。

③ウォーカブルに資する環境整備

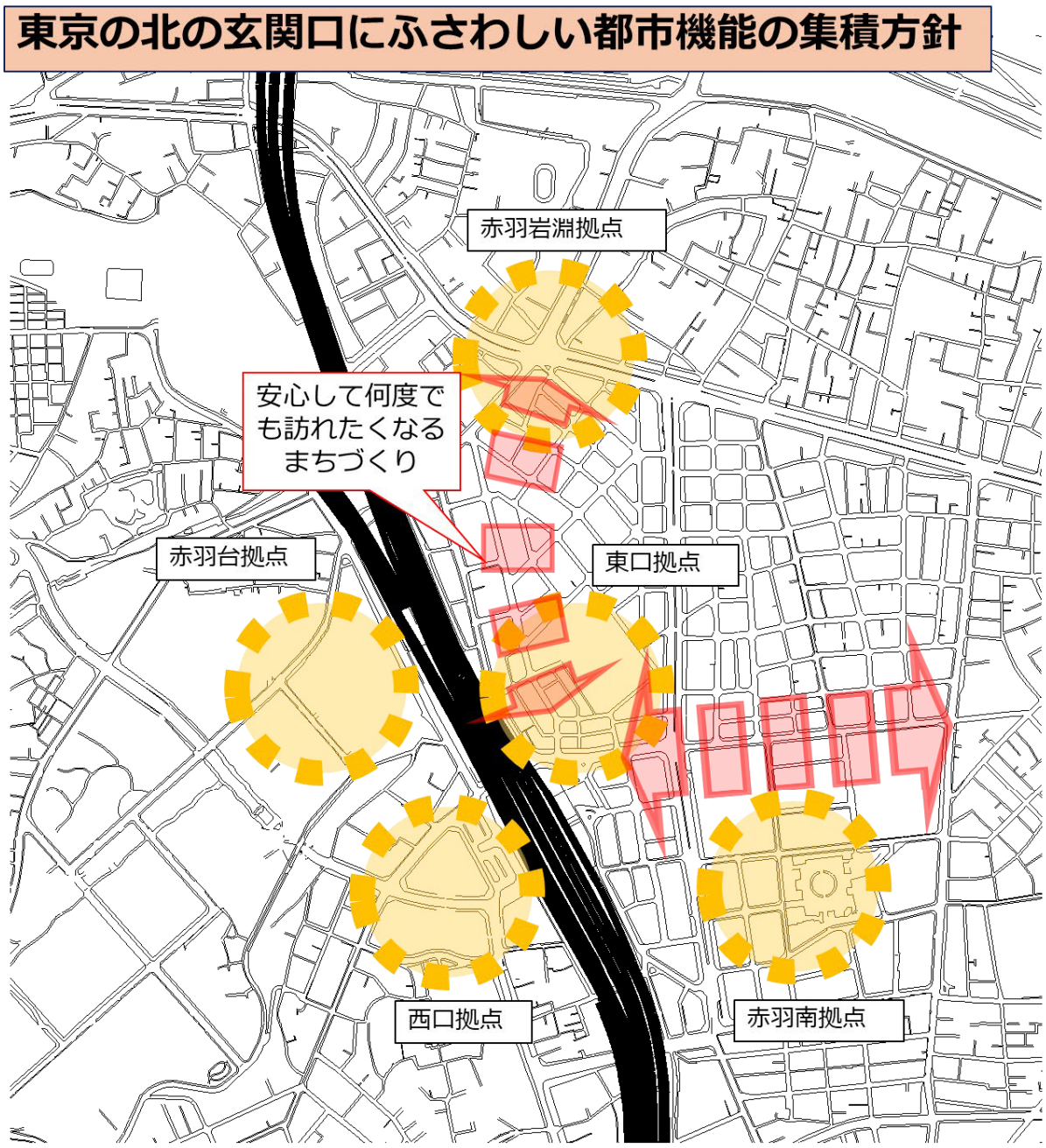
歩いて楽しく、居心地の良さが感じられるウォーカブルなまちづくりをすすめます。

また、荒川のかわまちづくりとの連携のもと駅周辺と河川空間のつながりを強化していきます。

都市公園

公園不足地区

東京の北の玄関口にふさわしい都市機能の集積方針



①都市機能・ゾーニングの再構成

駅周辺の機能集積と再構成を図るべき地区を地域の拠点として位置づけ、商業・業務・文化・教育・住宅・公園・広場等の各機能の集積と連携・分担を行い、赤羽の拠点形成を図かります。

②多様な暮らしを支える居住環境の整備

多様な人々、多様な世代が便利にいきいきと暮らせるまちになるよう居住環境の整備をすすめます。

③にぎわいのある魅力的な商業空間の整備

魅力的な商業空間整備とあわせて、安心して何度でも訪れたくなるまちづくりを行い、駅から連続するにぎわいの軸を形成していきます。

④人と人の交流を促す「場」の創出

まちづくりにあわせて人と人の交流がうまれる施設や仕組みを創出します。

地域の拠点

にぎわいの軸

□　重点区域におけるまちづくりの進め方

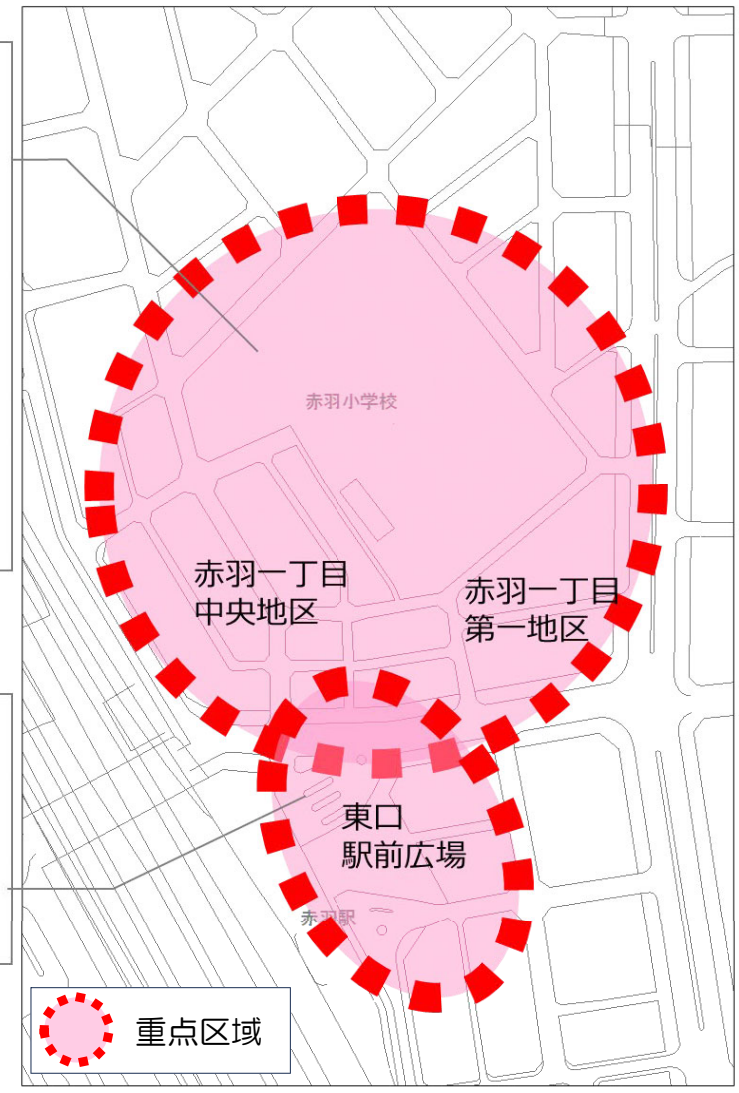
　重点区域では、取り組むべき多くの課題があるとともに、市街地再開発事業の動きがあることや赤羽小学校が改築の時期を迎えている状況などを踏まえ、今後、まちづくりに短期的・重点的に取り組むエリアを、改めて「重点区域」として位置づけることとし、まちづくりの進め方について提案しました。

- 建物の防災性の向上
- 震災や水害に備えた道路や公共的空間の整備
- 地域住民と来街者を守る環境整備

- 公共交通機関利用者の乗換え環境の整備とアクセス性の向上
- 駐輪場整備等による歩行者の通行環境の改善

- 赤羽の顔づくり
- 緑あふれるオープンスペースの整備
- ウォーカブルに資する環境整備

- 多様な暮らしを支える居住環境の整備
- 賑わいのある魅力的な商業空間の整備
- 人と人の交流を促す「場」の創出



- 震災や水害に備えた道路や公共的空間の整備
- 地域住民と来街者を守る環境整備

- 公共交通機関利用者の乗換え環境の整備とアクセス性の向上

- 赤羽の顔づくり

■ グループワークのとりまとめから、取り組むべき課題等がより集中し、課題解決によりその効果が大きいと考えられる区域を「重点区域」として位置付けます。

■ 先に触れた「まちづくりの目標」や「基本方針」を実現するためには、それぞれの街区で取り組みを進めるよりも、赤羽小学校や東口駅前広場を含めた区域全体で取り組みを進めることが、より効果的であると言えます。

■ これまでの検討を踏まえ、「重点区域」の範囲は、現時点で市街地再開発事業の動きがある各街区、赤羽小学校及び東口駅前広場を含む範囲とします。

■ この「重点区域」においては、事業区域の大くくり化を念頭に、公共施設整備を含めた、短期的かつ一体的なまちづくりを図ることとし、具体的な整備イメージや実現化方策等は、今後策定する（仮称）赤羽駅周辺まちづくり整備計画で明らかにしていきます。

□　重点区域におけるまちづくりの進め方

　重点区域におけるまちづくりの進め方については、第8回検討会当日、委員の皆様から様々なご意見がありました。次回以降引き続き検討していきます。

　重点区域は赤羽小学校や駅前広場を含めた区域にして、優先的かつ重点的に取り組まなければいけないということは、この検討会で合意してると思う。しかし、その次にある「事業区域の大くくり化を念頭に」に関しては、委員の皆様にやっていただいたグループワークの中で議論できていないのではという懸念がある。大くくり化については重点的にご意見をいただき、検討会として一定の結論が出るのならばそのようにするが、様々な意見があれば記載は控えたほうがよいと思う。費用面等も含めて慎重な議論が必要である。

　重点区域にどういうものをどういう規模でつくるのか、具体的な提案がなければ議論できないのではないか。

　昨年火災もあったが、このエリアはいつ災害があってもおかしくない。「早くやらないと人の命が奪われてしまう」という認識をもって考えるべき。

　赤羽小学校の老朽化、商店街の現状、そしてこれを取り囲む住民の生活環境等を考えて、重点区域を大街区として、重点的に検討しなければならないというのが、本検討会の趣旨であると理解している。

　重点区域は皆さんがお考えになる防災上や、その他の安心・安全も含めて早急に取り組むべき地域だと認識している。準備組合としてはこの議論を4年以上にわたって続けてきているので、ここで重点区域ということでお示しいただいたが、この検討会の意思にかかわらず、われわれは準備組合としてこれからも再開発に取り組んでいく。

ハード的なまちづくりだけではなく、まちづくりの実現に向けてソフト的な取り組みも進めてまいります。

■公民連携によるまちづくりの推進

まちづくりの目標を達成するために、区をはじめとする行政と区民、民間事業者等がそれぞれの役割を担い、互いに連携・協働して取り組んでいきます。

赤羽駅東口まちづくり協議会など、まちづくりを主体的に実践する組織の活動を促進し、多様な主体がまちづくりに関わる場を創出します。

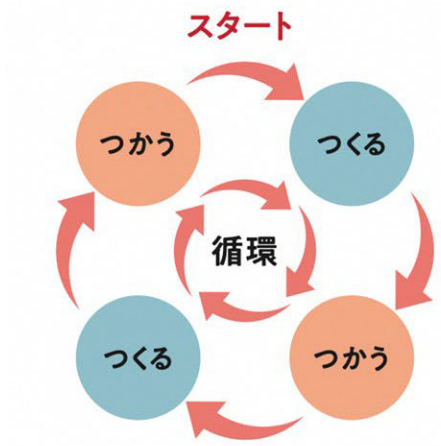
■エリアマネジメントの導入検討

公共空間をつくる前にその使い方を考え、整備後には公共空間の良好な管理と運営を行うエリアマネジメントの導入を検討します。

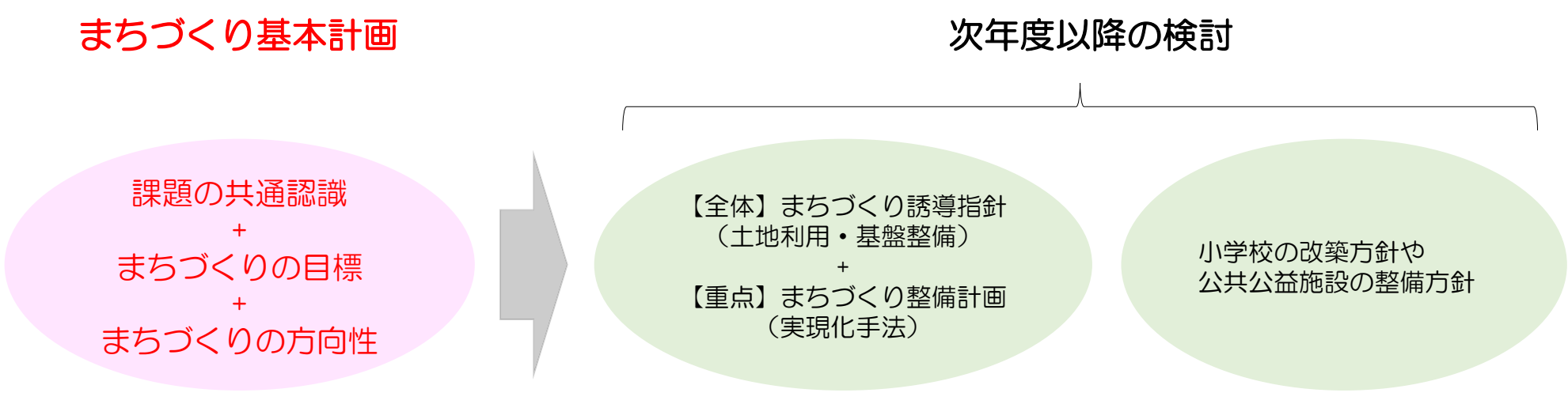
■持続可能なまちづくりの取組み

脱炭素など環境に配慮したまちづくりやそれを支える仕組みづくりなど持続可能なまちづくりを行います。

多様性を備えたクリエイティブな都市へと再生するエリアマネジメント（国土交通省）より



居心地が良く歩きたくなるグランドレベルデザイン（国土交通省）より

■まちづくり基本計画策定後の進め方

- まちづくりの目標の実現に向けて、周辺区域の土地利用や基盤整備のあり方をとりまとめ、まちづくりにおける誘導指針として、まちづくりガイドラインを策定します。
- 重点区域については、具体的な整備イメージや実現化方策等を明らかにしたまちづくり整備計画を策定します。
- まちづくりガイドラインやまちづくり整備計画の検討にあたっては、学識経験者や関係機関、関係事業者、区民代表等の参画を得た会議体を設置します。また、検討のプロセスの各段階で適切に区民意見の聴取と反映を行います。
- 小学校の改築方針や、公共公益施設の整備方針は、まちづくり基本計画やまちづくりガイドラインの内容を踏まえ、区が主体となり検討を進めてまいります。